

## 世界のサクランボ産業 2025年の総括

[FreshFruitPortal](#) 2025年12月26日

### 2025年の世界のサクランボ産業：品質と物流が重要となる中で南半球が支配的

世界のサクランボ産業にとって2025年は、北半球の生産量が世界的に限られる一方で南半球の旺盛な輸出が持続したことが特徴的であり、**調整と戦略的再定義**が進んだ年となった。

中国は依然としてこの果実の世界的な生産をリードしているが、その生産量の大部分は国内消費向けである。一方、トルコ、米国、及び一部の欧州連合(EU)加盟国 - スペイン、イタリア、ポーランド、ギリシャ等 - にとっては、**気候的要因、労働力不足及び高い生産コストの影響を受けたシーズン**であった。

チリは、北半球の出荷が無い時期に最大の輸出量を記録し、2025年は同国が生鮮サクランボの世界最大の輸出国としての地位を再確認した年となった。

アジアの大市場である中国は依然としてチリ産サクランボの主要な仕向け先である。しかし、**チリのサクランボ産業は引き続き、米国、欧州、中南米、インド等への輸出先の多様化に取り組んでいる**。

今年はチリと並んで南アフリカが好調なシーズンを背景に輸出の成長を確保した一方、オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチンは特定の市場及び戦略的な出荷時期に焦点を当て、より限定的な市場参加を維持した。

### 2025年のサクランボ産業は品質を最優先

この1年は、品質及び果実の状態の面でますます要求の厳しいサクランボ取引が顕著であった。これら新たな基準は、**価格圧力と競争激化の中での物流の効率性を試すものであった**。

世界的な視点では、米国農務省(USDA)の報告書は、2025/26年度の核果類の生産量は、トルコ、EU、米国の収穫量の減少により世界の合計で10%以上減少すると予測している。一方、中国及びチリでは増加が見込まれ、減少分の一部を埋合せると見られている。

生鮮サクランボ輸出の世界的リーダーであるチリ果実輸出業者協会(Frutas de Chile)は去る10月、**2025-26年度シーズンの出荷量を1億3,100万箱**と予測した。しかし、チリ果実生産者連盟(Fedefruta)は、近年と比べてサクランボの生産量が減少すると予測している。同連盟はこれを、果実のサイズ及び状態の改善を目的とした農学的判断、並びに近年続いた豊作シーズンの後の「生産上の不調」に起因するとしている。

### 南半球：チリ、アルゼンチン、南アフリカ

チリではシーズンが既に始まっており、サクランボ産業は収穫の最盛期にあり、高品質な果実の出荷を確保するため物流面に注力している。取り組みの1つは、**病害虫無発生地域に新たな梱包施設を設置し、国内各地からの出荷を可能にすること**である。

一方、南アフリカは好ましい気候条件により生産量の増加が見込まれ、有望なシーズンを迎えている。同時に、同国は2026/27年度シーズンに向けた中国市場へのアクセス交渉を進めている。

アメリカ大陸に戻ると、アルゼンチンは引き続きニッチ市場向けのサクランボの供給に注力し、果実の品質を非常に重視しつつ、中国以外への多様化を進めている。

### 欧州：品種及び多様化した生産

スペインでは、有名なヘルテ渓谷(スペイン有数のサクランボ産地)のサクランボが豊作となり、欧州の季節市場への供給期間が拡大した。

EU域内ではサクランボの消費も活発であり、消費量及び輸入量が増加している。イタリア、ポーランド、スペイン、ギリシャ、ドイツ等のサクランボ産業は、生産量及び国内消費量の両面で存在感を示している。

スペイン産サクランボのもう一つの節目は、中国市場の開放である。植物検疫プロトコルは3年間有効であり、輸出向けサクランボの調製、梱包、貯蔵、輸送は、スペイン農業漁業食料省の監督の下で実施されること

とされている。

#### **北米及びその他の産地**

米国では生産量が減少したものの(特にカリフォルニア州及びミシガン州)、**同国は依然としてサクランボの生産及び貿易における重要なプレーヤーである。**

中国は、旧正月等の年末年始の祝祭需要が高く、引き続きチリ産果実の主要な仕向け先である。

また、インド等の新興市場では輸入サクランボへの関心が高まっており、チリは主要供給国の一つとして位置づけられているが、物流及び数量の制約によりこれらの市場への出荷量は依然として限定的である。

#### **物流、品質及び課題**

チリのサクランボ産業は、アジア向け直行海上輸送のための「チェリーエクスプレス」サービスの開始及び拡大に力を入れ、2025/26年度シーズンに向けて物流を強化している。この新たなサービスは、従来の輸送手段と比較して輸送時間及び競争力を改善する。

しかし、**気候条件から、果実を目的地で最適な状態に保つための収穫後管理における継続的なイノベーションの必要性に至るまで、世界のサクランボ産業には依然として課題が残っている。**

この文脈において、品質はすべてのサクランボ供給国にとって中心的な要素として位置づけられている。消費体験は今日、販売及び最終消費者によるリピート購入を生み出す上で不可欠なものとなっている。

この明確な目標の下、南半球のサクランボ産業は全速力で取り組んでおり、物流、品質、果実の状態、市場の多様化が融合した過去のシーズンの**教訓が活かされている。**